

No. 550【2023年4月14日配信】

青森県庁の改築(担当:村上亜弥)

こんにちは。歴史資料室の村上亜弥です。

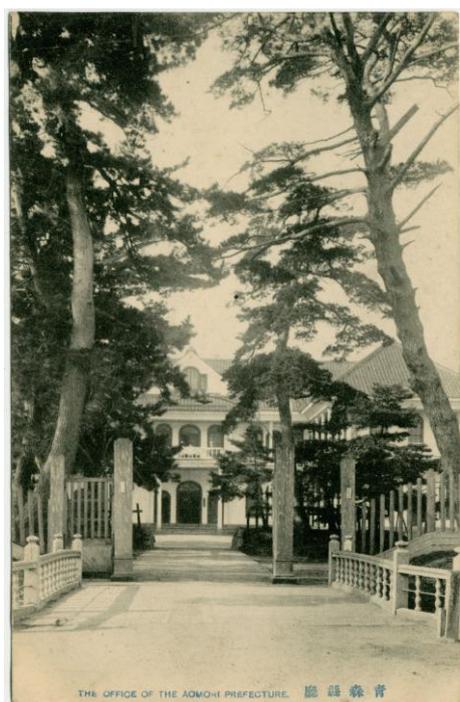
4月13日(木曜日)から歴史資料室の新しい企画展示「青森の人と風景—木村家旧蔵資料を中心に」が始まりました。この展示は歴史資料室が青森市のアマチュア写真家・木村智吉さん(1914-75)のご家族から寄贈を受けた資料をご紹介しますものです。

この度寄贈を受けた資料は木村さんが撮影した写真と戦前に発行された絵はがきです。このうち木村さんが撮影した写真については2月3日(金曜日)から3月5日(日曜日)までリンクモア平安閣市民ホールギャラリーにおいて開催した企画展「サンデーカメラマンが写した青森—木村智吉写真展」でもご紹介しました。

今回の展示では図書館7階のエントランスと8階の展示スペースに木村さんが昭和20年代後半から30年代前半にかけて撮影した写真を展示しています。市民ホールギャラリーで行った展示よりも点数は少ないですが、一部写真の入替を行い、新たな解説を加えています。

そして、8階のガラスケースには寄贈を受けた絵はがきの中から「県庁附近」「大林区署」「野内村」という3つのテーマで選んだ15点を展示しています。今日はその中から2代目県庁舎(明治15年<1882>建設)の絵はがき2枚についてお話しします。

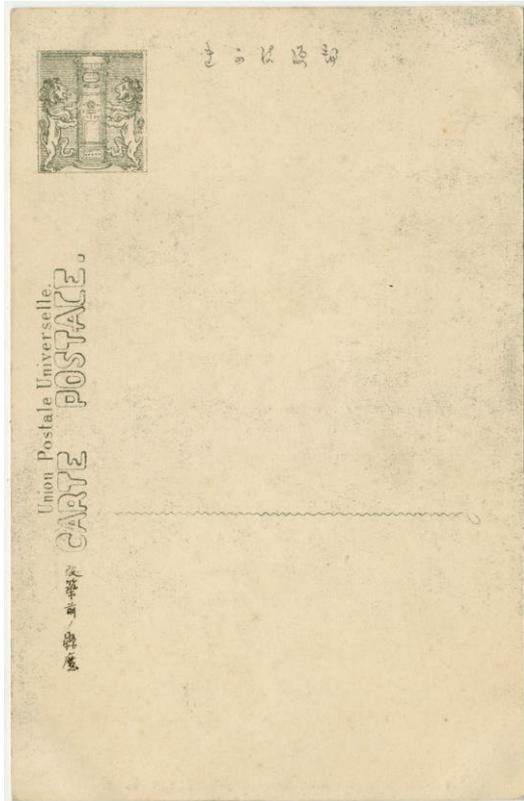
2枚の絵はがきはどちらも県庁舎正面の写真を使用したのですが、屋根や玄関附近の構造が異なります。また、宛名を書く面を見ると1枚には「改築前ノ県庁」、もう1枚には「改築後ノ県庁」というメモ書きがあります。



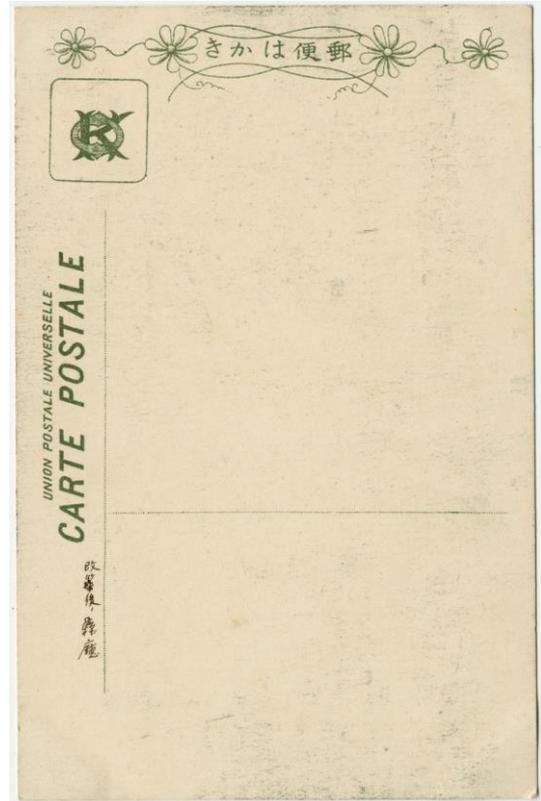
青森県庁の絵はがき①



青森県庁の絵はがき②



①の裏面



②の裏面

県庁舎の改築は皇太子(のちの大正天皇)の行啓に合わせて、明治41年7月に行われました。つまり、改築前と書かれた絵はがきは明治41年7月以前、改築後と書かれた絵はがきはそれ以降に撮影された写真を使用したものなのです。

皇太子は明治41年9月に来青し、青森県庁や第三中学校(のちの青森中学校、現青森高校)、青森県物産陳列場などを訪問しました。ガラスケースには県庁舎の絵はがきとあわせて第三中学校と物産陳列場の絵はがきも展示しています。このうち物産陳列場の絵はがきは「青森県史デジタルアーカイブシステム」や「青森県立図書館デジタルアーカイブ」に登録がなく、珍しいものです(物産陳列場については「あおり歴史トリビア」第404号もあわせてご覧ください)。

展示期間は7月3日(月曜日)までとなりますので、市民図書館へお越しの際はぜひご覧ください。